

国語

注 意

1. 問題は【一】から【三】まであります。
2. 試験時間は50分です。
3. 解答は解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
4. 字数制限のある問題では、句読点やかっこ、その他の記号も一字に数えます。
5. 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

【一】 次の各問に答えなさい。

問一 次の各文の傍線部の漢字は読み方をひらがなで答え、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- ① 過酷なロウドウに耐える。
- ② 失敗に対しベンカイなどするな。
- ③ パソコンがまたコショウした。
- ④ 新しい大統領をシジする。
- ⑤ 環境問題にシンケンに取り組む。
- ⑥ いやみたつぷりにヒニクを言う。
- ⑦ 犯人から人質をウバい返した。
- ⑧ ライオンは集団でカリを行う。
- ⑨ 風呂敷に衣類をツツむ。
- ⑩ 自分の生き方にホコリを持ちなさい。
- ⑪ 彼は素行に問題がある。
- ⑫ 清涼感のある服装をしている。
- ⑬ 返事を保留する。
- ⑭ 失敗を成長の糧にする。
- ⑮ 寒さのため身が凍える。
- ⑯ 信頼を損なうようなまねはするな。

問二 次の①～③はある文学作品の一節です。これらの作者を後の選択肢ア～キからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 「最後の死力をつくしてメロスは走った。……ただ、わけのわからぬ大きな力に引きずられて走った。日はゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も消えようとしたとき、メロスは疾風のごとく刑場に突入した。……既に、はりつけの柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは徐々にすり上げられてゆく。」

- ② 「……汽車の中はすっかり明るくなりました。『ああ、マジエランの星雲だ。さあもうきつと僕は僕のために、僕のお母さんのために、カムパネルラのために、みんなのために、ほんとうのほんとうの幸福をさがすぞ。』ジョバンニは唇を噛んで、そのマジエランの星雲をのぞんで立ちました。」

- ③ 「禪智内供の鼻といえは、池の尾で知らない者はいない。長さは五六寸あって上唇の下からあごの先まで下っている。形は元も先も同じように太い。いわば細長い腸詰のような物が、ぶらりと顔のまん中からぶら下がっているのである。」

- ア 芥川龍之介 イ 川端康成 ウ 三島由紀夫 エ 夏目漱石
オ 太宰治 カ 井伏鱒二 キ 宮沢賢治

問三 次の①～④の内容を言い表す最も適切な四字熟語を完成させなさい。

- ① ボクシングを始めて以来、ずっと憧れだった宮田選手との試合がやつと決まり、今はただ試合が待ち遠しい。

一 (ア) 千 (イ)

- ② 志保さんはとてもきれいな人でクラスの男子のあこがれの的だが、先日の校内実力試験でトップの成績をとった。

(ウ) (エ) 兼備

- ③ いまの政府は目先のことにとられ行き当たりばったりで長期的な見通しがなく、定めた政策も都合が悪くなるとすぐに変えてしまうので、国民も戸惑っている。

朝 (オ) 暮 (カ)

- ④ 信之さんは高校時代はラグビーで全国大会に出場し、その後有名大学に入学、一流会社就職し、いまはきれいな奥さんとかわいい子どもに恵まれ幸せに暮らしている。

(キ) 風 (ク) 帆

【二】 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

現在約五〇億の世界人口が、毎年約二〇〇億トンの二酸化炭素を大気圏に廃棄している。私一人でも四トンほど廃棄している。私の生活そのものが何かの形でそれだけのエネルギーを消費しているわけである。

人類全体として、化石燃料依存のエネルギー戦略が行きづまっていることは目に見えている。それが市民ひとりひとりにさほど深刻に思われていないのは、犠牲を絶えず未来世代の人類に転嫁しているからだ。だから未来への責任という価値こそが、現在もつとも重要な意味をもっている。そのことを明らかにする学問として、「環境倫理学」というものがアメリカで発達してきている。

環境倫理学は、個人の利益の総和が社会的利益であるという原理は不十分だと考える。「個人の利益」の中に未来の世代の利益が入っていないからだ。たとえば地球に現在一〇

○の石炭があるとすると、そのうち六〇を現在世代が使えば、未来世代には四〇しか残らない。現在が豊かになればなるほど未来が貧しくなる。現在と未来をならして勘定したときに、最大多数の最大幸福を計算すれば、石炭は使わない方がいいという結論がでる。人類全体の生存可能性を最大にするという価値は、現在世代の豊かさを最大にするという価値よりも、優先されなければならない。地下資源については、客観的埋蔵量にたいする年間使用量の割合が少ない資源の方に利用の中心を移していかなければならない。

①現在世代と未来世代の利益が、対立する現在の文化構造を、対立を含まない形に変えていかなければならない。

地球温暖化の問題にも、現在世代と未来世代の利益対立がある。この場合にも、現在の豊かさよりも未来の生存可能性が優先するという原理が大切である。環境保護が経済成長かという選択に対して、政治家はいつも「あれも、これも」という返事をしたが、現実はいつも「(X)、(Y)」なのである。「経済成長を維持できる限度内で環境保護を行うべきだ」という意見は、当面の現実策として必ずしも反対ではないが、究極の問題として考えれば、答えは分かっている。A

この大原則を現実の軌道に乗せた上で、それでもなるべく経済成長も助長すべきだということなら正しい。

恐ろしいことに、現在世界の全体としての流れは、経済成長という舟に乗り込む努力に集約されていく。南の開発途上の国々が、一人当たりでアメリカ並みの石油消費をしたら、アフリカにどのくらい砂漠が広がることになるのか、だれも予測はつかないが、現在世界で公認されているトレンドが経済成長以外にはないという点に世界の危機がある。とくに中国の経済開発が進んだときに、石炭の使用量が急速に増大すると予測される。温暖化の問題はいまよりもきびしくなる。経済成長よりもっと優先順位の高い価値原理があらわになっているのに、世界はむしろそれに逆行している。

未来への責任という観点に世界全体が立つとき、もう地球は手遅れだという事態にむかつて歴史は進んでいるかもしれない。どうして人類は未来への責任を忘れてしまったのだろうか。

実は近代化の隠れた構造の一つに「決定の現在化」^②という要素がある。結婚を例にとってみよう。なんのために結婚するのか。いま、家のため、家系を絶やさないうために結婚するなどと言ったら、奇人あつかいされてしまう。しかし、江戸時代ではこれが常識である。過去からつながる世代の連続のなかに結婚が位置づけられている。だから結婚は未来の世代をつくるためだという観念も含まれている。

*4 封建的なシステムでは、世代間のバトンタッチという形で倫理が出来上がっている。結

婚は当人の幸福のためにというモラルには、世代間の関係は組み込まれていない。現在では結婚が古い世代からの若い世代の離脱という性格を示している。結婚式は、若い世代のモラルがどれだけ古い世代の倫理と違うかを強調する形になっている。

人類は、近代化によって、「過去の世代にはもう遠慮はしませんよ」という文化を作り上げた。それが実は、「未来の世代にも責任を負いません」という反面を含んでいる。つまり封建倫理はたんに古い世代の支配だというのは、近代主義者の偏見であって、封建倫理は未来世代のための倫理でもあったのだ。「家」という観念には、未来世代の繁栄を願う気持ちも含まれていた。

近代主義が進歩の風をふかしている間は、未来世代と利害が一致しているたてまえだった。^③「未来の世代はぼくたちよりもっとずっと幸せになれる」という信念が進歩主義であるからだ。進歩主義は、自分で未来の世代の生存条件を悪くしておいて、未来の世代が自分より繁栄すると信じているのだから、ひどい嘘つきである。先祖の遺産を浪費してしまつて、あとの世代にはなにも残さないくせに、おれは子孫のために自動車を発明してやつたなどと得意がっているのが現代文化である。

石油・石炭を燃やしてエネルギーを湯水のように浪費する文化は必ずどこかで行きづまる。長く見積もっても、化石エネルギーの消費という時代は人類の歴史のなかで五百年位しか続かない。人類の歴史が過去と未来に五万年ずつあるとすると、その十万年の内のわずか五百年の世代が、地球の生態系が三十五億年の歴史をかけて蓄積した太陽エネルギーの化石を使いきってしまうのだ。これ以上のエゴイズムは考えられない。未来の世代は、化石エネルギー浪費文化の恩恵は受けないのだ。現在の繁栄は未来の窮乏である。

スペイン人が南米のインディオを大量殺戮したことが歴史上最大のエゴイズムであるという説を聞いたことがある。イギリスの阿片戦争の方が悪質だという意見もある。地図の上の征服というエゴイズムはよく見える。これと違つて現在の世代の未来の世代へのエゴイズムは目に見えない。しかもそのエゴイズムを告発しても、権利を守られる原告の席にはまだ誰も座つてはくれない。

未来への責任という倫理を、近代倫理の構造的な欠落であると謙虚に認め、そして現在の世代は未来の人類の生存のための犠牲を支払わなくてはならない。これが現代世界のもつとも中心的な課題であると思う。

注 (加藤尚武『世紀末の思想』)

*1 環境倫理学……環境問題を道徳的な判断や善悪の基準の面から考える学問。

*2 助長……その傾向が強まるようにすること。

*3 トレンド……傾向。社会や時代の流れ。

*4 封建的……上下関係を重視し、個人の自由や権利などを基本的に認めない様子。

*5 モラル……倫理、道徳。

*6 エゴイズム……自分の利益を第一にし他人をかえりみない考え方。

*7 インディオ……中南米の先住民。

*8 阿片戦争……一八四〇年に清(現在の中国)とイギリスの間で起こった戦争。

*9 告発……悪事を暴いて訴えること。

*10 原告……裁判所に訴えを起こす当事者。

問一 問題文中の傍線部 a・b の意味として最も適切なものを後の選択肢ア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a 転嫁 ア 他におしつけること イ 異なるものに変化させること

ウ 大きく広げていくこと エ 巻きぞえにすること

b 偏見 ア 深い考察のないものの考え方 イ 意地の悪いものの考え方

ウ まとまりのないものの考え方 エ 公平さを欠いたものの考え方

問二 問題文中の傍線部 i「現実」・ii「たてまえ」の対義語をそれぞれ漢字二字で答えなさい。

問三 傍線部①「現在世代と未来世代の利益が、対立する現在の文化構造」とあるが、

「現在世代と未来世代の利益が対立している」とは具体的に現代のどのような状況を表しているか。後の(A)に六字以内、(B)は三十字以上三十五字以内で考えて説明しなさい。

資源は (A) ()にも関わらず、(B) ()状況。

問四 問題文中の(X)、(Y)に入る最も適切な平仮名三字をそれぞれ書きなさい。

問五 問題文中のへ へに入る言葉を、解答欄の「経済成長を」に続く形で、十五字以上二十五字以内で考えて書きなさい。

経済成長をへ 十五字以上二十五字以内 へ。

問六 問題文中の傍線部②「決定の現在化」を説明しているものとして最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人々が、良き伝統を維持しつつ生活の質を向上させるため、過去から続く風習を受け継ぎさらに高めていくことを目的として、現在の行動を決定すること。

イ 人々が、社会における制約や周囲との調和以上に、いまの自分たちの希望を優先しそれをかなえることを目的として、現在の自分の行動を決定すること。

ウ 人々が、世界全体の流れに乗ってさらなる進歩を図り、過去からの風習を否定し現代に合った慣習の構築を目的として、現在の自分の行動を決定すること。

エ 人々が、現代の発展は未来のさらなる幸福につながると信じ、今後継続していく繁栄の基盤となることを目的として、現在の自分の行動を決定すること。

問七 問題文中の傍線部③「未来の世代はぼくたちよりもずっと幸せになれる」という考えから読み取れることについて述べた次の一文の()に入る言葉として最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

() (こそが人類の向上につながると信じている。

ア 文明の発展 イ 文化の継承 ウ エネルギーの開発 エ 知識の蓄積

問八 問題文中の傍線部④「現在の世代の未来の世代へのエゴイズムは目に見えない」とあるが、なぜか。その理由について解答欄の「現在の世代の未来の世代へのエゴイズムは」に続く形で、「地図上の征服」との違いを明らかにして説明しなさい。ただし、「被害者」「存在」「自覚」という言葉を必ず用いること。

【三】 次の文章を読んで後の間に答えなさい。

二〇〇七年の印象的な出来事といえば、私はまず九月末にミャンマーで起きた僧侶のデモと軍による武力弾圧を思い出す。「ありえない！」ということを感じてきたミャンマーの軍事政権だが、まさか僧侶を殴ったり殺したりするとは想像できなかった。

私はミャンマーに関する本を三冊書いているし、殺害されたジャーナリスト・長井健司さんを知っており、そうブログにも書いたので、単なる知り合いから新聞・テレビの記者まで、問い合わせや質問が殺到した。

もちろん、ミャンマーに注目が集まることは黙殺されるよりずっとマシなのだが、それでも「なんだかなあ……」という複雑な思いは拭えない。ミャンマーに行く日本人旅行者は年間たった二万人だという。お隣のタイに行く人は百二十万人だというから、その差に愕然とする。

ミャンマーに限らず、何か政治的に大きな問題を抱えている国は、たとえ外国人旅行者に特に危険がなくても人は行かない。行かないから関心も持てない。

「やっぱり『ショー』なんだよな」

私は十数年前のある出来事を思い出した。

ミャンマーの反政府少数民族民族独立運動にかかわっていたときのことだ。親しくしていた*4 グリラの長老が、*5 エンドレスで続く内戦に疲れ厭戦ムードが蔓延する*6 グリラの幹部や若手*8 たちを叱咤した。

「どうしてもっとガンガン戦わないんだ？ ショーをやらなきゃお客は来ないぞ」

私はこのショー発言に衝撃を受けた。その晩、私たちは大激論をした。

「戦って死ぬのは若い兵士ですよ。ショーというのはあんまりだ」私が非難すると長老は悲しそうな口調で答えた。

「しかしそれが現実なんだ。戦争をやって犠牲者が出ないと国際社会は誰も私たちに目を向けてくれない。おまえだってそうだろう？ 戦争もしないで、私たちが政府の言いなりになっていたら暮らしていたら何も書くことがないだろう？」

グーの音も出なかった。口先とは裏腹に、私はこのグリラが政府と正面から激突することを期待していたからだ。結局このグリラは戦わずして政府に投降し、私も戦争取材を志すことをやめた。

今回の僧侶デモ弾圧はミャンマーにおいては、一九八八年以来、約二十年ぶりの「派手なショー」だった。いつもはミャンマーに興味を寄せないジャーナリストたちがどっと押し寄せた。長井健司さんもその一人だ。そして長井さんは凶弾に倒れることによって、自

らショーの一部となってしまった。

私は長井さんがこれまでやってきたことも、切迫したミャンマーのデモ現場に乗り込んでカメラを回したことも凄いと感心し、そういう人が必要だとも思う。だが、「ショーの一部」になってしまつて本当にいいのだろうか。

私は全国紙の記者から電話取材を受けたし、NHKに至っては渋谷のスタジオまでわざわざ足を運び、カメラの回るなか長々とインタビューを受けたのに、一言もニュースで使われなかった。

理由は簡単。私が長井さんと付き合いがあつたのは、今から約二十年前である。私は早稲田大学探検部のメンバーを率いてアフリカ・コンゴに謎の怪獣を探しに行こうとしていた。当時、テレビ番組の企画をやっていた長井さんもその怪獣に興味を持っていた。「せっかくだから一緒にやろう」ということになった。結局、その番組は実現しなかったが、長井さんは「下見」と称して、ポンとコンゴの奥地に飛び、怪獣の棲むと言われる湖の一步手前の村まで一人で行つてしまった。このフットワークの軽さと思ひ切りのよさに驚いたことはよく憶えている。

だが、「その頃から長井さんはX Vみたいなものに駆られていましたか？」という記者の質問には首をひねった。当時、長井さんは私たち同様、好奇心に満ちた若者だった。「おもしろいことがあれば、自分の目で見たい」、ただそれだけだった。怪獣探検に行けなくてほんとうに残念そうだった。彼が「誰も行かないところには誰かが行かねばならない」とX Vに燃えるようになったのは、そのあと、おそらく、ジャーナリストとして中東などの紛争地に行つてからだろう。

というようなことを正直に答えたのがいけなかった。NHKのデスクは「怪獣探し？」

ダメだ、そんなのとあつさり全部カットにしまったという。

③だが、それはちがうんじゃないかと私は思うのである。

ミャンマーは二十年前のショーと今回のショーの間、どこにも存在していなかったわけではない。ずっと、あの中国とインドとタイに囲まれた特異な地勢的環境のもとにあり、そこに住むさまざまな民族の人たちも、私たち日本人と同じかそれ以上に豊かな文化を保ち、笑ったり泣いたりしながら日々を過ごしてきたはずだ。

長井さんも同じように、生まれたときからX Vを持ったジャーナリストであつたはずがない。最初は好奇心のおもむくままにどこへでも行つてしまふ元気で普通の若者だったのだ。それを「最初から特別で立派な人」に仕立てあげ、あたかも「一般人は先進国と観光地以外に行くな」と言わんばかりの報道を行う。

④ショーが開催していない「幕間」でも、国も人も常に動いている。というより、その動

-9-

問七 問題文中の傍線部④「幕間」は、何を例えた表現か。最も適切なものを次の選択肢
ア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 戦争 イ 社会 ウ 観光地 エ 日常

問八 問題文中の傍線部⑤「いい意味で件の長老の言葉を裏切ってほしい」とあるが、筆者は、人々がどうすることを望んでいるのか。四十字以上五十字以内で具体的に説明しなさい。

逗子開成中学校

二〇一一年度 一次入試 国語

訂正

① P六、問五の設問一行目

(誤) 解答欄の「経済成長を」に、

←

(正) 左のわくの中の「経済成長を」に、

② P九、問一の設問二行目

(誤) 解答欄につながるように、

←

(正) 左のわくの中につながるように、

以上

国語

解答用紙

(2011-J1)

受験番号
氏 名
得 点

【一】					
問 一			問 三		
①	⑥	⑪	⑫	⑬	⑭
②	⑦	⑧	⑨	⑩	⑤
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖
㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜
㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳
㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹
㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
㋀	㋁	㋂	㋃	㋄	㋅
㋆	㋇	㋈	㋉	㋊	㋋
㋌	㋍	㋎	㋏	㋐	㋑
㋒	㋓	㋔	㋕	㋖	㋗
㋘	㋙	㋚	㋛	㋜	㋝
㋞	㋟	㋠	㋡	㋢	㋣
㋤	㋥	㋦	㋧	㋨	㋩
㋪	㋫	㋬	㋭	㋮	㋯
㋰	㋱	㋲	㋳	㋴	㋵
㋶	㋷	㋸	㋹	㋺	㋻
㋼	㋽	㋾	㋿	㌀	㌁
㌂	㌃	㌄	㌅	㌆	㌇
㌈	㌉	㌊	㌋	㌌	㌍
㌎	㌏	㌐	㌑	㌒	㌓
㌔	㌕	㌖	㌗	㌘	㌙
㌚	㌛	㌜	㌝	㌞	㌟
㌠	㌡	㌢	㌣	㌤	㌥
㌦	㌧	㌨	㌩	㌪	㌫
㌬	㌭	㌮	㌯	㌰	㌱
㌲	㌳	㌴	㌵	㌶	㌷
㌸	㌹	㌺	㌻	㌼	㌽
㌾	㌿	㍀	㍁	㍂	㍃
㍄	㍅	㍆	㍇	㍈	㍉
㍊	㍋	㍌	㍍	㍎	㍏
㍐	㍑	㍒	㍓	㍔	㍕
㍖	㍗	㍘	㍙	㍚	㍛
㍜	㍝	㍞	㍟	㍠	㍡
㍢	㍣	㍤	㍥	㍦	㍧
㍨	㍩	㍪	㍫	㍬	㍭
㍮	㍯	㍰	㍱	㍲	㍳
㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹
㍺	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿
㏀	㏁	㏂	㏃	㏄	㏅
㏆	㏇	㏈	㏉	㏊	㏋
㏌	㏍	㏎	㏏	㏐	㏑
㏒	㏓	㏔	㏕	㏖	㏗
㏘	㏙	㏚	㏛	㏜	㏝
㏞	㏟	㏠	㏡	㏢	㏣
㏤	㏥	㏦	㏧	㏨	㏩
㏪	㏫	㏬	㏭	㏮	㏯
㏰	㏱	㏲	㏳	㏴	㏵
㏶	㏷	㏸	㏹	㏺	㏻
㏼	㏽	㏾	㏿	㐀	㐁
㐂	㐃	㐄	㐅	㐆	㐇
㐈	㐉	㐊	㐋	㐌	㐍
㐎	㐏	㐐	㐑	㐒	㐓
㐔	㐕	㐖	㐗	㐘	㐙
㐚	㐛	㐜	㐝	㐞	㐟
㐠	㐡	㐢	㐣	㐤	㐥
㐦	㐧	㐨	㐩	㐪	㐫
㐬	㐭	㐮	㐯	㐰	㐱
㐲	㐳	㐴	㐵	㐶	㐷
㐸	㐹	㐺	㐻	㐼	㐽
㐾	㐿	㑀	㑁	㑂	㑃
㑄	㑅	㑆	㑇	㑈	㑉
㑊	㑋	㑌	㑍	㑎	㑏
㑐	㑑	㑒	㑓	㑔	㑕
㑖	㑗	㑘	㑙	㑚	㑛
㑜	㑝	㑞	㑟	㑠	㑡
㑢	㑣	㑤	㑥	㑦	㑧
㑨	㑩	㑪	㑫	㑬	㑭
㑮	㑯	㑰	㑱	㑲	㑳
㑴	㑵	㑶	㑷	㑸	㑹
㑺	㑻	㑼	㑽	㑾	㑿
㒀	㒁	㒂	㒃	㒄	㒅
㒆	㒇	㒈	㒉	㒊	㒋
㒌	㒍	㒎	㒏	㒐	㒑
㒒	㒓	㒔	㒕	㒖	㒗
㒘	㒙	㒚	㒛	㒜	㒝
㒞	㒟	㒠	㒡	㒢	㒣
㒤	㒥	㒦	㒧	㒨	㒩
㒪	㒫	㒬	㒭	㒮	㒯
㒰	㒱	㒲	㒳	㒴	㒵
㒶	㒷	㒸	㒹	㒺	㒻
㒼	㒽	㒾	㒿	㓀	㓁
㓂	㓃	㓄	㓅	㓆	㓇
㓈	㓉	㓊	㓋	㓌	㓍
㓎	㓏	㓐	㓑	㓒	㓓
㓔	㓕	㓖	㓗	㓘	㓙
㓚	㓛	㓜	㓝	㓞	㓟
㓠	㓡	㓢	㓣	㓤	㓥
㓦	㓧	㓨	㓩	㓪	㓫
㓬	㓭	㓮	㓯	㓰	㓱
㓲	㓳	㓴	㓵	㓶	㓷
㓸	㓹	㓺	㓻	㓼	㓽
㓾	㓿	㔀	㔁	㔂	㔃
㔄	㔅	㔆	㔇	㔈	㔉
㔊	㔋	㔌	㔍	㔎	㔏
㔐	㔑	㔒	㔓	㔔	㔕
㔖	㔗	㔘	㔙	㔚	㔛
㔜	㔝	㔞	㔟	㔠	㔡
㔢	㔣	㔤	㔥	㔦	㔧
㔨	㔩	㔪	㔫	㔬	㔭
㔮	㔯	㔰	㔱	㔲	㔳
㔴	㔵	㔶	㔷	㔸	㔹
㔺	㔻	㔼	㔽	㔾	㔿
㕀	㕁	㕂	㕃	㕄	㕅
㕆	㕇	㕈	㕉	㕊	㕋
㕌	㕍	㕎	㕏	㕐	㕑
㕒	㕓	㕔	㕕	㕖	㕗
㕘	㕙	㕚	㕛	㕜	㕝
㕞	㕟	㕠	㕡	㕢	㕣
㕤	㕥	㕦	㕧	㕨	㕩
㕪	㕫	㕬	㕭	㕮	㕯
㕰	㕱	㕲	㕳	㕴	㕵
㕶	㕷	㕸	㕹	㕺	㕻
㕼	㕽	㕾	㕿	㖀	㖁
㖂	㖃	㖄	㖅	㖆	㖇
㖈	㖉	㖊	㖋	㖌	㖍
㖎	㖏	㖐	㖑	㖒	㖓
㖔	㖕	㖖	㖗	㖘	㖙
㖚	㖛	㖜	㖝	㖞	㖟
㖠	㖡	㖢	㖣	㖤	㖥
㖦	㖧	㖨	㖩	㖪	㖫
㖬	㖭	㖮	㖯	㖰	㖱
㖲	㖳	㖴	㖵	㖶	㖷
㖸	㖹	㖺	㖻	㖼	㖽
㖾	㖿	㗀	㗁	㗂	㗃
㗄	㗅	㗆	㗇	㗈	㗉
㗊	㗋	㗌	㗍	㗎	㗏
㗐	㗑	㗒	㗓	㗔	㗕
㗖	㗗	㗘	㗙	㗚	㗛
㗜	㗝	㗞	㗟	㗠	㗡
㗢	㗣	㗤	㗥	㗦	㗧
㗨	㗩	㗪	㗫	㗬	㗭
㗮	㗯	㗰	㗱	㗲	㗳
㗴	㗵	㗶	㗷	㗸	㗹
㗺	㗻	㗼	㗽	㗾	㗿
㘀	㘁	㘂	㘃	㘄	㘅
㘆	㘇	㘈	㘉	㘊	㘋
㘌	㘍	㘎	㘏	㘐	㘑
㘒	㘓	㘔	㘕	㘖	㘗
㘘	㘙	㘚	㘛	㘜	㘝
㘞	㘟	㘠	㘡	㘢	㘣
㘤	㘥	㘦	㘧	㘨	㘩
㘪	㘫	㘬	㘭	㘮	㘯
㘰	㘱	㘲	㘳	㘴	㘵
㘶	㘷	㘸	㘹	㘺	㘻
㘼	㘽	㘾	㘿	㙀	㙁
㙂	㙃	㙄	㙅	㙆	㙇
㙈	㙉	㙊	㙋	㙌	㙍
㙎	㙏	㙐	㙑	㙒	㙓
㙔	㙕	㙖	㙗	㙘	㙙
㙚	㙛	㙜	㙝	㙞	㙟
㙠	㙡	㙢	㙣	㙤	㙥
㙦	㙧	㙨	㙩	㙪	㙫
㙬	㙭	㙮	㙯	㙰	㙱
㙲	㙳	㙴	㙵	㙶	㙷
㙸	㙹	㙺	㙻	㙼	㙽
㙾	㙿	㚀	㚁	㚂	㚃
㚄	㚅	㚆	㚇	㚈	㚉
㚊	㚋	㚌	㚍	㚎	㚏
㚐	㚑	㚒	㚓	㚔	㚕
㚖	㚗	㚘	㚙	㚚	㚛
㚜	㚝	㚞	㚟	㚠	㚡
㚢	㚣	㚤	㚥	㚦	㚧
㚨	㚩	㚪	㚫	㚬	㚭
㚮	㚯	㚰	㚱	㚲	㚳
㚴	㚵	㚶	㚷	㚸	㚹
㚺	㚻	㚼	㚽	㚾	㚿
㞀	㞁	㞂	㞃	㞄	㞅
㞆	㞇	㞈	㞉	㞊	㞋
㞌	㞍	㞎	㞏	㞐	㞑
㞒	㞓	㞔	㞕	㞖	㞗
㞘	㞙	㞚	㞛	㞜	㞝
㞞	㞟	㞠	㞡	㞢	㞣
㞤	㞥	㞦	㞧	㞨	㞩
㞪	㞫	㞬	㞭	㞮	㞯
㞰	㞱	㞲	㞳	㞴	㞵
㞶	㞷	㞸	㞹	㞺	㞻
㞼	㞽	㞾	㞿	㟀	㟁
㟂	㟃	㟄	㟅	㟆	㟇
㟈	㟉	㟊	㟋	㟌	㟍
㟎	㟏	㟐	㟑	㟒	㟓
㟔	㟕	㟖	㟗	㟘	㟙
㟚	㟛	㟜	㟝	㟞	㟟
㟠	㟡	㟢	㟣	㟤	㟥
㟦	㟧	㟨	㟩	㟪	㟫
㟬	㟭	㟮	㟯	㟰	㟱
㟲	㟳	㟴	㟵	㟶	㟷
㟸	㟹	㟺	㟻	㟼	㟽
㟾	㟿	㠀	㠁	㠂	㠃
㠄	㠅	㠆	㠇	㠈	㠉
㠊	㠋	㠌	㠍	㠎	㠏
㠐	㠑	㠒	㠓	㠔	㠕
㠖	㠗	㠘	㠙	㠚	㠛
㠜	㠝	㠞	㠟	㠠	㠡
㠢	㠣	㠤	㠥	㠦	㠧
㠨	㠩	㠪	㠫	㠬	㠭
㠮	㠯	㠰	㠱	㠲	㠳
㠴	㠵	㠶	㠷	㠸	㠹
㠺	㠻	㠼	㠽	㠾	㠿
㡀	㡁	㡂	㡃	㡄	㡅
㡆	㡇	㡈	㡉	㡊	㡋
㡌	㡍	㡎	㡏	㡐	㡑
㡒	㡓	㡔	㡕	㡖	㡗
㡘	㡙	㡚	㡛	㡜	㡝
㡞	㡟	㡠	㡡	㡢	㡣
㡤	㡥	㡦	㡧	㡨	㡩
㡪	㡫	㡬	㡭	㡮	㡯
㡰	㡱	㡲	㡳	㡴	㡵
㡶	㡷	㡸	㡹	㡺	㡻
㡼	㡽	㡾	㡿	㢀	㢁
㢂	㢃	㢄	㢅	㢆	㢇
㢈	㢉	㢊	㢋	㢌	㢍
㢎	㢏	㢐	㢑	㢒	㢓
㢔	㢕	㢖	㢗	㢘	㢙
㢚	㢛	㢜	㢝	㢞	㢟
㢠	㢡	㢢	㢣	㢤	㢥
㢦	㢧	㢨	㢩	㢪	㢫
㢬	㢭	㢮	㢯	㢰	㢱
㢲	㢳	㢴	㢵	㢶	㢷
㢸	㢹	㢺	㢻	㢼	㢽
㢾	㢿	㣀	㣁	㣂	㣃
㣄	㣅	㣆	㣇	㣈	㣉
㣊	㣋	㣌	㣍	㣎	㣏
㣐	㣑	㣒	㣓	㣔	㣕
㣖	㣗	㣘	㣙	㣚	㣛
㣜	㣝	㣞	㣟	㣠	㣡
㣢	㣣	㣤	㣥	㣦	㣧
㣨	㣩	㣪	㣫	㣬	㣭
㣮	㣯	㣰	㣱	㣲	㣳
㣴	㣵	㣶	㣷	㣸	㣹
㣺	㣻	㣼	㣽	㣾	㣿